

**「第13回キッズデザイン賞」で「イクメン休業」の取り組みなど  
男女共同参画担当大臣賞、審査委員長特別賞を受賞  
育児休業取得や幸せ住まい研究でよりよい社会づくりのきっかけに**

積水ハウス株式会社は、9月25日に発表されたキッズデザイン協議会（内閣府認証NPO法人、本部：東京都港区）主催の「第13回キッズデザイン賞」<sup>※1</sup>において、子どもたちを産み育てやすいデザイン部門で「イクメン休業」が優秀賞・男女共同参画担当大臣賞を、「ベビーOS」<sup>※2</sup>（3歳未満の乳幼児に特有の思考や行動）研究<sup>※3</sup>が特別賞・審査委員長特別賞を受賞しました。



【キッズデザインマーク】

**第13回キッズデザイン賞  
〈子どもたちを産み育てやすいデザイン部門〉**

**優秀賞・男女共同参画担当大臣賞  
「イクメン休業」**

**特別賞・審査委員長特別賞  
「ベビーOS（3歳未満の乳幼児に特有の思考や行動）研究」**

当社では、子どもが安全かつ感性豊かに育つ住環境、子どもを産み育てやすい社会環境の創出を目指して様々な活動を行っています。

今回「男女共同参画担当大臣賞」を受賞しました「イクメン休業」では、多くの業種業態で取り組むべき先進例として評価されました。「『わが家』を世界一幸せな場所にする」というビジョンより、お客様に幸せを提供するためには社員も幸せであるべきという考えのもと、男性社員1カ月以上の育児休業完全取得を宣言し、2018年9月より「イクメン休業」の運用を開始しました。



実際に「イクメン休業」を取得した男性社員とご家族

また、「ベビーOS研究」は、子どもの生きる力を育む「居どころづくり」と、安全安心・自主性を考えた「子どものためのユニバーサルデザイン」を提案する「コドモイドコロ」を深化させる取り組みで、「住めば住むほど幸せ住まい研究」の一環です。

積水ハウスグループは「人間愛」を企業理念の根本哲学とし、すべての多様な人材が活躍できる働き方改革を推進しています。今後も世の中に先んじたダイバーシティ経営を推進し、ESG経営のリーディングカンパニーを目指してまいります。

※1 キッズデザイン賞は、子どもや子どもの産み育てに配慮したすべての製品・空間・サービス・活動・研究を対象とする顕彰制度です。（キッズデザイン賞HP <https://kidsdesignaward.jp/>）

※2 OS = Operating System ※3 コンビ株式会社との共同応募

## 各受賞内容について

### <子どもたちを産み育てやすいデザイン部門>

#### ■優秀賞・男女共同参画担当大臣賞「イクメン休業」

##### 審査評

我が国の男性の育休取得率は増加傾向にあるものの、国際的にみれば限りまだ決して高くない。取得を阻む物理的・心理的なハードルを取り除くための工夫もよく考えられているが、育休経験によって上司・同僚や顧客に対しても好影響があるという調査結果は注目に値する。妊娠がわかってから育休取得までの時間を利用して、自らの仕事や時間の使い方、社内外のコミュニケーションの再認識ができる点は、働き方を見つめ直す良い契機となる。多くの業種業態で取り組むべき先進例として本賞に選出した。

当社では、2018年9月より運用を開始した「イクメン休業」制度において、円滑な導入ができるよう社内サポート体制を整備し、全社を挙げて取得を促進した結果、開始から1年を経過した2019年8月末時点で取得期限を迎えたすべての男性社員253名が、1ヵ月以上の育児休業を100%取得しました。<sup>※4</sup>

イクメン休業が生み出す価値と効果は「本人とその家族」だけでなく「職場」「会社」「お客様」に広がっています。

よりよい社会づくりをともに考えるきっかけにしたいとの思いから、9月19日を「育休を考える日」として記念日に制定し、日本全国の育休実態を調査した「イクメン白書」と、育休をサポートする「家族ミーティングシート」をオープンソース化しました。(サイトURL: <https://www.sekisuihouse.co.jp/ikukyu/>)

社内に蓄積されたデータや事例を基に「キッズ・ファースト企業」として男性の育児参加を促進する社会を牽引していきます。

# 19 育休を考える日

「育休を考える日」ロゴマーク

※4 男性育休制度「イクメン休業」の運用を開始した2018年9月より2019年1月末までを準備期間とし、その間で子どもが3歳を迎えた社員に関しては、個別に相談に応じており、1ヵ月未満の取得を認めています。

#### ■特別賞・審査委員長特別賞「ベビーOS（3歳未満の乳幼児に特有の思考や行動）研究」

##### 審査評

キッズデザイン製品開発の基本ツールである「こどもOSランゲージ」を低年齢児期に応用した、社会提案性の高い取り組みである。安全配慮・事故防止観点の「ハザード」と、子どもの創造性と五感を喚起する「プレイフル」の2軸で成果がまとめられている。サンプル数を増やし、研究がさらに深く進むことに期待したい。

3歳未満の乳幼児（以下、ベビー）期は、誤飲ややけど、ベッドでの窒息・転落など、特有の事故が起りやすい時期です。積水ハウスは、「住めば住むほど幸せ住まい」研究の一環として、育児用品メーカーのコンビ株式会社（東京都台東区）と共同で、ベビーの行動観察と親へのヒアリング調査を行い、ベビーに特有の思考や行動特性「ベビーOS」を把握しました。その結果をもとに、25個のOSランゲージにまとめ、引き起こされる危険と配慮すべきデザインのポイントを明確にしました。さらに、OSランゲージごとに、ハザード（安全配慮、事故防止）とプレイフル（ベビーが興味を持って楽しむ）の2種のデザインコードを作成し、デザインの発想法を構築しました。それらを「ベビーOS」シートとして分かりやすく資料化しました。

これにより、デザイナーや商品開発者は、ベビーの思考や行動特性を理解し、商品やサービスのデザインに活かすことが可能となります。パパやママにとっても、ベビーの安全配慮に役立つものとなっています。当社でもベビーOSで得られた知見を活かし、新しいアイテムや暮らし提案を研究開発中です。今後もベビーの安全・安心な環境づくりを実現していきます。



パパ・ママ向け「ベビーOS」リーフレット